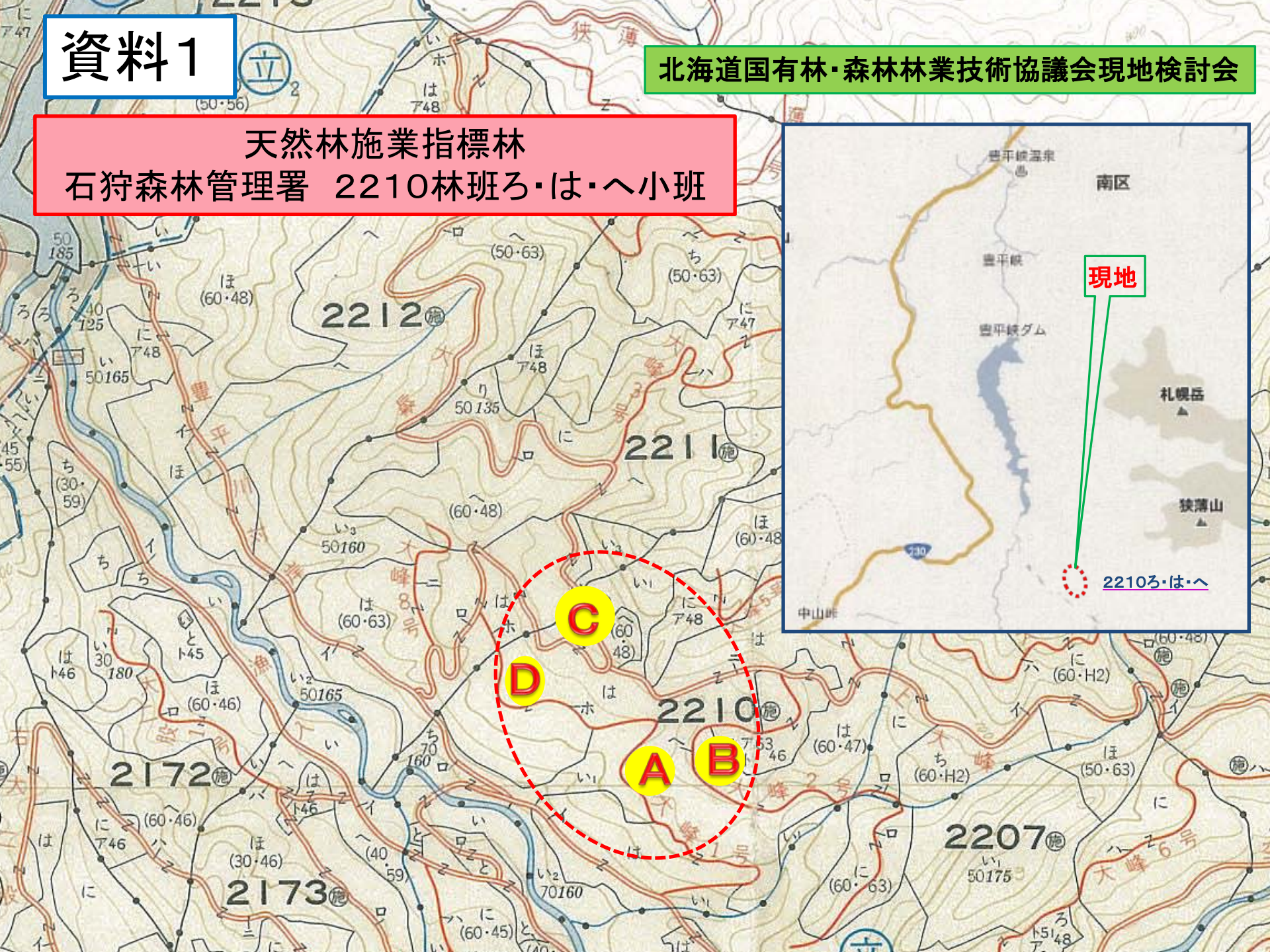


立

天然林施業指標林
石狩森林管理署 2210林班ろ・は・へ小班



天然林施業指標林の概要

- 設定目的

天然林択伐施業の選木指針を定め、林分タイプ別4箇所試験地において、更新方法の検討、林分成長量の測定などを通じて天然林の施業体系を確立することを目的とする

- 石狩森林管理署 2210林班ろ・は・へ小班

- 標 高 620～670m

- 方 位 南西向き

- 土壌型 BD、BE型

試験地の概要

- 1969(昭和44)年に林分タイプに応じて4試験地を設定

A区 0.48ha 老齢単層林

B区 1.22ha 群状複層林

C区 1.26ha 上中二段林

D区 1.06ha 上下二段林

※ ただし、B区においては下層木の被圧を防ぐため、上層木を全木伐採したため、試験の継続が不可能になったことから試験地から除外した

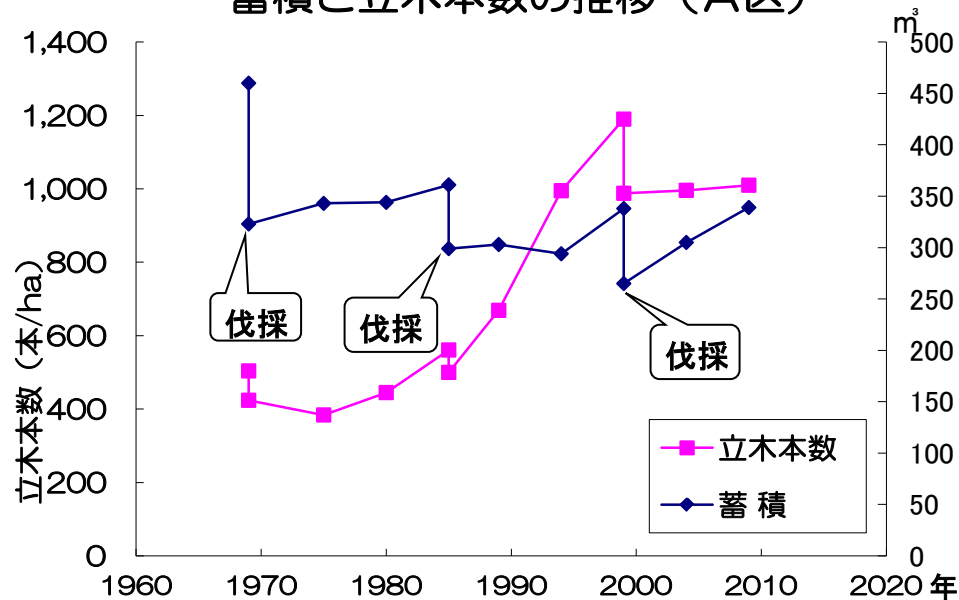
天然林施業指標林の選木指針と更新方法（設定当初）

区	林分構成の特徴	伐採方法	伐採木の選定方針		更新方法
			残すもの	伐採するもの	
A	老齢単層林 エゾマツの老齢大径木を主として、トドマツ、広葉樹をわずかに混交する林分 2段または3段の樹冠層で構成されているが互いに接近しているので外観上は一斉林に見える。	択伐 エゾマツを主とする択伐林に誘導する。	1. 林分構成の維持に配慮し、今後成長の期待ができるものは残す。 2. 広葉樹の優良木は残す。	今後の成長が期待できないトドマツ、エゾマツの大径木及び広葉樹不良木は伐採する。	1. 後継樹の少ない相対照度30%以上の箇所には植込みを行う。 2. 除伐刈出しも併せて行う。
B	群状複層林 樹冠層が複雑な樹群によって構成されている林分で、樹群が散在し空間が目立つ。エゾマツの老齢大径木を主とし、これにダケカンバを混交した樹群が多い。	択伐 単木又は群状択伐 樹群を単位として取り扱う。	発展性のある樹群は残す。 保残した群が植栽木の保護樹の役割を果たすよう考慮する。	樹群を単位に伐採する。 若い樹群については間伐的取り扱いを行う。	1. 群内にトドマツアカエゾマツを2000本/ha程度混植する。 2. 植栽力所以以外はブルドーザによる地表処理を行う。
C	上中二段林 上層はエゾマツ・広葉樹の大径木、中層は成長旺盛なトドマツ・エゾマツ・広葉樹によって構成されている混交林	択伐 上中層の不良木を伐採し、択伐林に誘導する。	針葉樹・広葉樹ともに将来価値成長の期待できるものは残す。	1. 今後発展性のないものを伐採する。 2. 林分構成の維持に注意する。	林分全体にわたってトドマツを1000本/ha程度混植する。
D	上下二段林 上層はトドマツ、エゾマツ 広葉樹の中大径木、下層は広葉樹の小径木によって構成されている林分	整理伐 上層の形質不良木を伐採し、二段林に誘導する。	1. 上層木では今後価値成長の期待できるものを残す。 2. 下層の広葉樹は除伐対象木以外は残す。	形質不良及び今後発展性のないものを伐採する。	1. トドマツ、アカエゾマツを混植する。 2. 下層の広葉樹小径木は育成する。

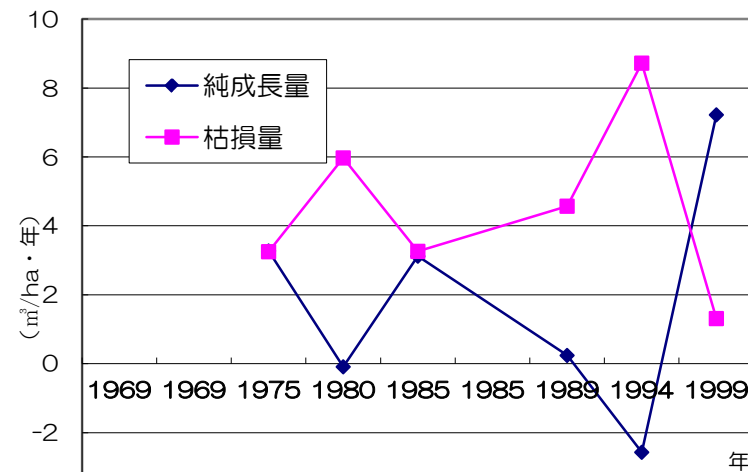
試験地(A・C・D区)における経過

調 査 区		A 区	C 区	D 区
伐採の方法		択伐	択伐	択伐
伐 採 率 (%)	1970(S45)年	30		38
	1985(S60)年	17		17
	1999(H11)年	20	27	19
植込本数 (本／ha)	1972(S47)年	アカエゾマツ 500～800		アカエゾマツ 500～800
	1973(S48)年	トドマツ 500～800		トドマツ 500～800
	1999(H11)年	トドマツ 1000 アカエゾマツ 1000	トドマツ 1000	トドマツ 1000 アカエゾマツ 1000

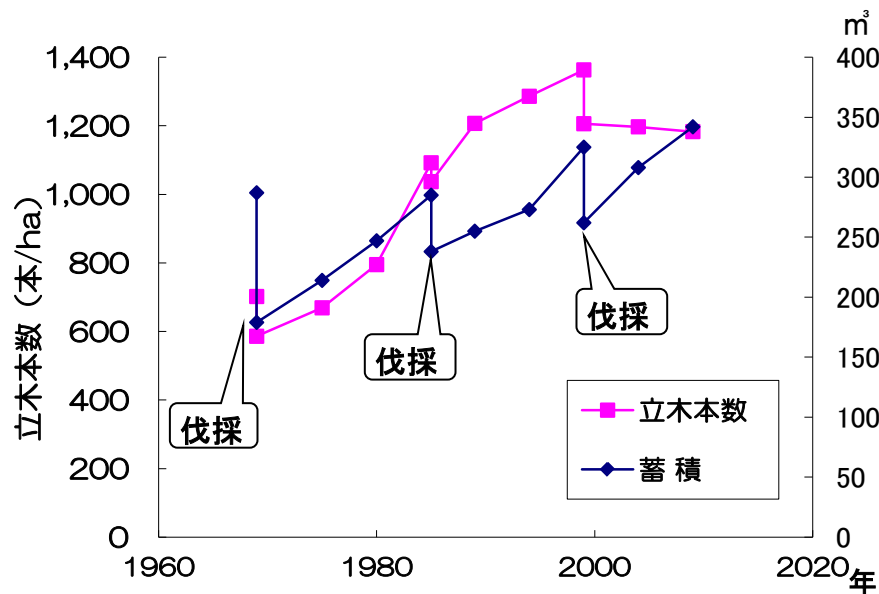
蓄積と立木本数の推移（A区）



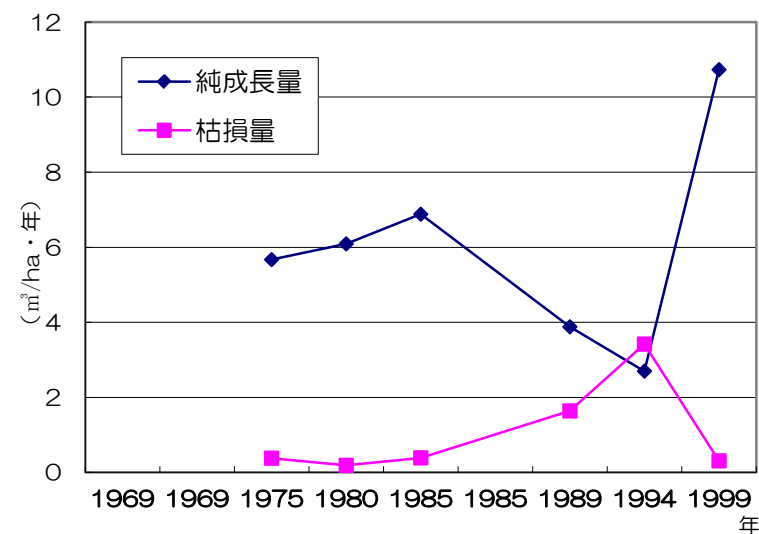
純成長量と枯損量（A区）



蓄積と立木本数の推移（D区）



純成長量と枯損量（D区）



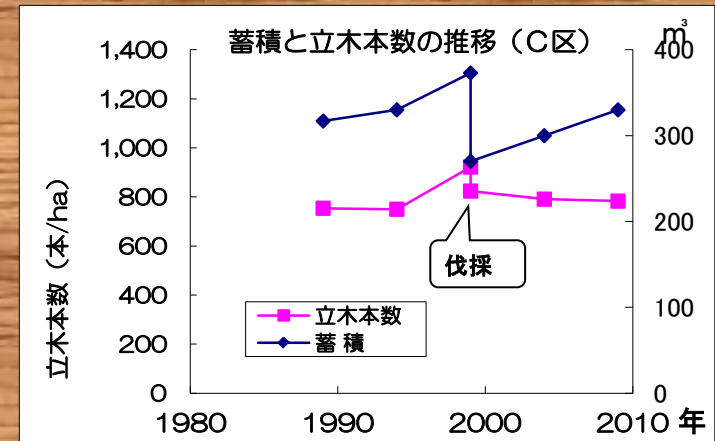
試験地の今後の取り扱い

A区

- ・1～2回目の伐採により残存大径木に大量の枯損
- ・蓄積は横這い傾向
- ・次回の択伐で成長の衰退した針葉樹大径木を整理し、下層の後継樹の成長を促す。

C区

- ・蓄積の推移は上向き
- ・継続的な択伐の実施



D区

- ・枯損の発生も少なく良好な成長
- ・蓄積の推移は上向きで良好
- ・十分な小中径木が確保された択伐林として望ましい状態
- ・継続的な択伐の実施